

ローマの信徒への手紙 10 章 10 節～17 節

「良い知らせを伝える者の足は、なんと美しいことか」(ロマ 10:15)、本日はこの御言葉に心を傾けたいと思います。これは旧約聖書、イザヤ 52:7「いかに美しいことか 山々を行き巡り、良い知らせを伝える者の足は。彼は平和を告げ、恵みの良い知らせを伝え 救いを告げ あなたの神は王となられた、と シオンに向かって呼ばれる。」御言葉を、手紙の著者であるパウロが引用したものです。当時イスラエルの民は捕らわれの身で希望が見えない時代を生きていましたが、その人々に向かって語られた喜びの歌といわれています。全ての人が救いの到来を告げる福音を受け入れ、全ての希望の人となるようにと招かれているという意味が込められているのです。時代がどうであろうと、困難の極みであっても、神様のご計画は恵みとしてあり続けたのです。救いの御言葉・福音の喜びが、それを聞く者全てのの人に約束されている、その喜びを伝える者の駆け回り汚れ傷ついた足こそがイザヤは美しいと告げています。

良い知らせ＝福音

では、良い知らせとは何でしょうか。それは福音のことで、語源は原語のギリシア語「ユーアンゲリオン」からきています。元々は戦争で勝利を伝える→伝令という言葉で、英語のゴスペルの訳語でもあります。新約の時代に照らし合わせていうと、「もう、争いは終わった。勝利した! イエス・キリストの到来・誕生と共に、私たちは目にすること耳にすることが全てだと思い込まなくてよい、また、暗闇の時代と思えるような現代であっても、怯えなくてよい、イエス様の到来と共に新しい時代が始まった。イエス様が「良い知らせ」を告げる「足」となって、今を生きる私にも、もたらせてくださっている、という事になります。イザヤが旧約の民に語ったと同時に、現代に生きる私たちにも語られているということを先ず心に留めたいと思います。私たちは既に喜びと恵みの内に生かされてここに存在しているということを。(マタイ 28:18-20)－

その良い知らせは、どのような人々が対象だったのでしょうか。「ユダヤ人であろうがギリシア人であろうが、ユダヤ人もギリシア人も皆、罪の下にあるのです」(3:9)とあります。言い換えるならば、どちらも救われるに相応しくない者であるということです。そのような相応しくない者のために、イエス様が全ての人の罪を代わりに負って、全ての人のために苦しみを受け、十字架にお架かりになったのです。ですので、「罪から勝利した」と告げる美しい足となってイエス様がこの世に到来されました。更に、イエスキリストの名を呼び求めるすべての人を豊かにお恵みになると書かれているのです。

そうしてイエス様が語られる言葉によって、人々は心が揺り動かされ、罪ある者、滅びるしかない自分であることを見出し、キリストを呼び求めて生きる者となったのです。「実に、信仰は聞くことにより、しかも、キリストの言葉を聞くことによって始まるのです」という通りです。続いて、「主の名を呼び求める者はだれでも救われる」(13 節)と、記されているごとくです。これが神の恵みです。

聞くことから始まる信仰

そこでパウロは、「ところで、信じたことのない方を、どうして呼び求められよう。聞いたことのない方を、どうして信じられよう。また、宣べ伝える人がなければ、どうして聞くことができよう。遣わされないで、どうして宣べ伝えることができよう」(14-15 節)と、つまり信仰は聞くことから始まると語られています。ここに集っておられる方々も、どのような経緯で、きっかけで教会においでになったかは其々違いますが、イエス様のことをお聞きして教会に集わられています。キリストを信じるためには、

何らかのきっかけがあった筈です。それが教会のしてきたことであり、教会が今もしていることなのです。だから宣教の言葉は「キリストの言葉」と呼ばれ、「聞く」ということも、そのようなキリストの語りかけ、キリストの言葉を聞くのです。「実に、信仰は聞くことにより、しかも、キリストの言葉を聞くことによって始まるのです。

私たちはイエス様のお言葉を聞いて、罪が赦され、永遠の命を得た、という喜ばしい知らせを既に届けられて受け取ったのです。そして受け入れた者は、神の恵みで満たされ、神の愛に包まれた人生を送るようになります。皆さんも実感していると思うのですが、自分には誇れるものはなくても、神を喜び、感謝し賛美を捧げる人生の幸いを知るようになりました。このことを宣べ伝える人がなければ、キリストの言葉を伝えることができません。まだ聞かれていない多くの人々のただ中に、私たちは遣わされているのです。

わたしたちの足は美しい

その良い知らせを告げるには、イエス様の時代は、土や砂利や石畳の道を草履で歩き、日常的に足は真っ黒だったと思います。また時には盗賊に遭遇したり、命に危険に晒されることもあった時代です。しかし、呼び求める人の所に向かい、寄り添い、自分の時間を使ったその足は、犠牲を伴った他者に対する愛ゆえだからこそ「美しい」のです。

イエス様は差別され、痛めつけられ、苦しめられている人たちの真ん中におられ、その傷を労り、救いと解放の福音＝良い知らせを告げ、その結果ご自身も差別され、痛めつけられ、裏切られて苦しみに遭いました。良い知らせを伝える足が美しいのは、犠牲と痛みが伴うからこそ美しいのです。この世にはない尊い美しさです。

週報にも記されていますように、9月は信徒証し月間で、3名の方々が立てられています。日曜日毎に教会において、イエスキリストが語られている御言葉をお聞きますが、また、信徒の方からのお証しを通して、行為を通して、次の人がまた救われてゆくのです。福音はそうして、救いをもたらす方、救いの主なるお方は、人を用い、人を生かし、人にそれを運ばせるのです。収穫の秋に向かって、自分が与えられている時間のその一部を神に捧げて、其々の賜物をもってイエスキリストの福音を伝える者として、美しい足となって用いられたら幸いです。

先週は、神戸の教会で礼拝をお捧げいたしました。その教会は所謂単立教会で家庭集会から始まった教会ですが、全てが伝道に結びついており、人が人を呼ぶ教会として成長し続けています。今では 250 名ほどの方々集まり、教会は手狭に何って新会堂を求めています、土地柄、とても手がでないという嬉しい悲鳴を上げています。

先週の月曜日には、壮年の方々がゴルフに行くことでしたが、参加する方が、必ずお友達を連れてくるという伝道目的の為のゴルフです。コースを回りながら、そして昼食を囲みながら、福音は伝えられるという分けです。私たちの教会もビジョンとして、「一人がひとりを連れてくる」と掲げられています。私たち一人ひとりが美しい足となって、このことを是非とも実現できたらと願いながら京都に戻って参りました。